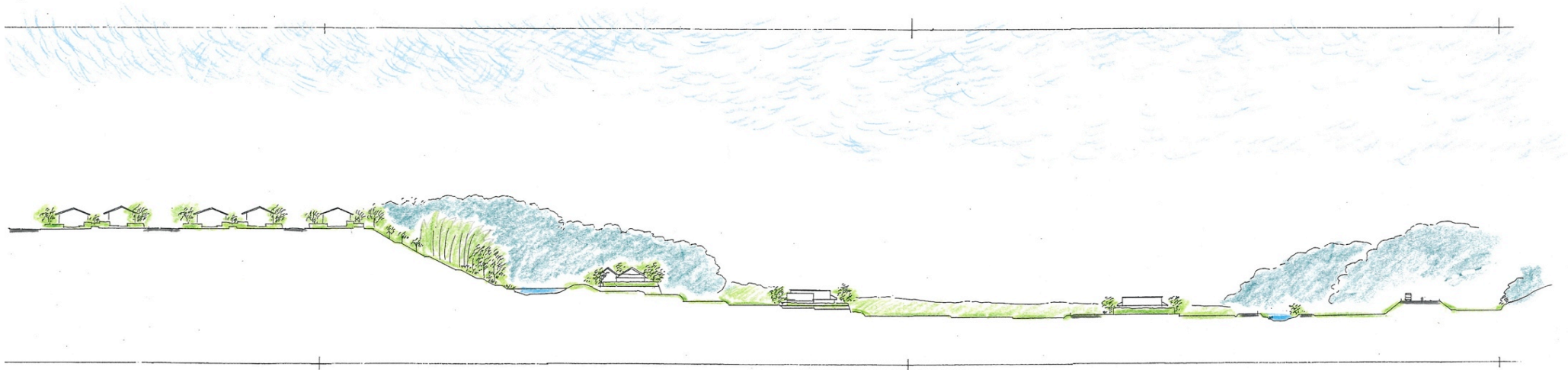


里山住宅博 in 神戸
街区コード

学生による設計コンペ

街区コード基本的な考え方

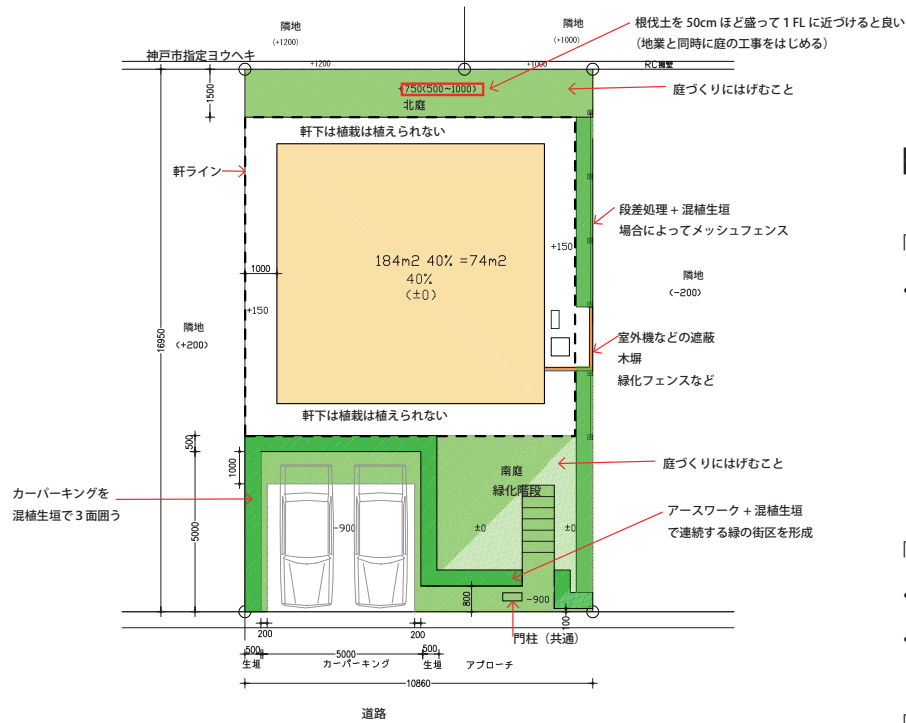
目標： 上津台にふさわしい 地域の土、石、木、植物を使って
当初の外構空間を構成し、緑豊かな街区の礎を形成する



上津台断面図

街区コード基本的な考え方

- 街路に向かってはコンクリート（コンクリートブロック積）を使わない
 - アースワーク+混植生垣 で景観を連続させて緑の街区を形成する
 - 駐車場は混植生垣で3面を囲むように努めること
- 隣地との間では
 - 敷地地盤レベルの段差の解消につとめる（敷地内発生土を有効に利用する）
 - 敷地両隣の配置計画、地盤レベルの段差などお互い理解した上で提案すること
 - 段差の手当は地盤レベルの高い側が行う（コンクリートブロックは使用しないこと）
 - 土留+生垣、あるいは土留+フェンスとする（低い隣地は庭の輪郭を得ることになるので、植栽・庭づくりにつとめる）
 - 室外機などは木塀、緑化フェンスなどで遮蔽すること
- 建材、植物材料は共通なものとする
 - 植物材料は兵庫県か近県の郷土種を原則とする
 - 碎石、砂利、砂は最寄の採石場のものとする
 - 門柱、フェンスなどの資材は住宅博カタログにあるものとする



【里山住宅博 外構コード基本的な考え方〈解説〉】

「土工事」

- 建築基礎工事、駐車場、舗装工事などで発生する残土はできるだけ敷地内で処理する事。
(設計上、建築 GL 設定などを配慮すること)
(敷地奥のアースワーク工事などは建築基礎工事前に行う。)
(当初より外構工事の工程を立てると、アースワークの施工時間を軽減する事ができる。)

「混植生垣」

- 駐車場は混植生垣で限りなく3面を囲まれるように努める
- 道路沿いは混植生垣が連続するように植えること

「軒下」

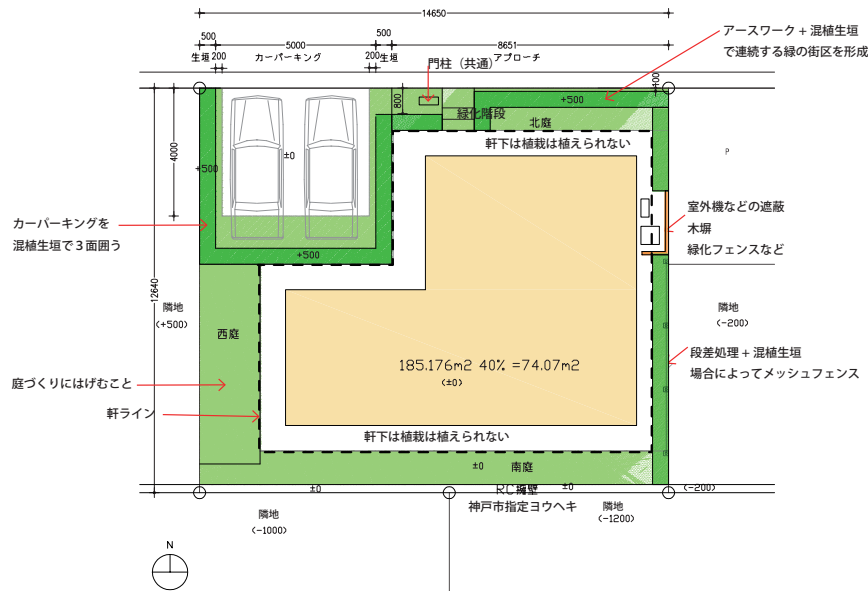
- 建築にまつわる給排水管(地下埋設物)は軒下のルートを原則とする
- 雨のあたらない軒下は植栽をしない
- 玄関ポーチ、濡れ緑、ウッドデッキ、軒下の階段、木塀は建築工事とする

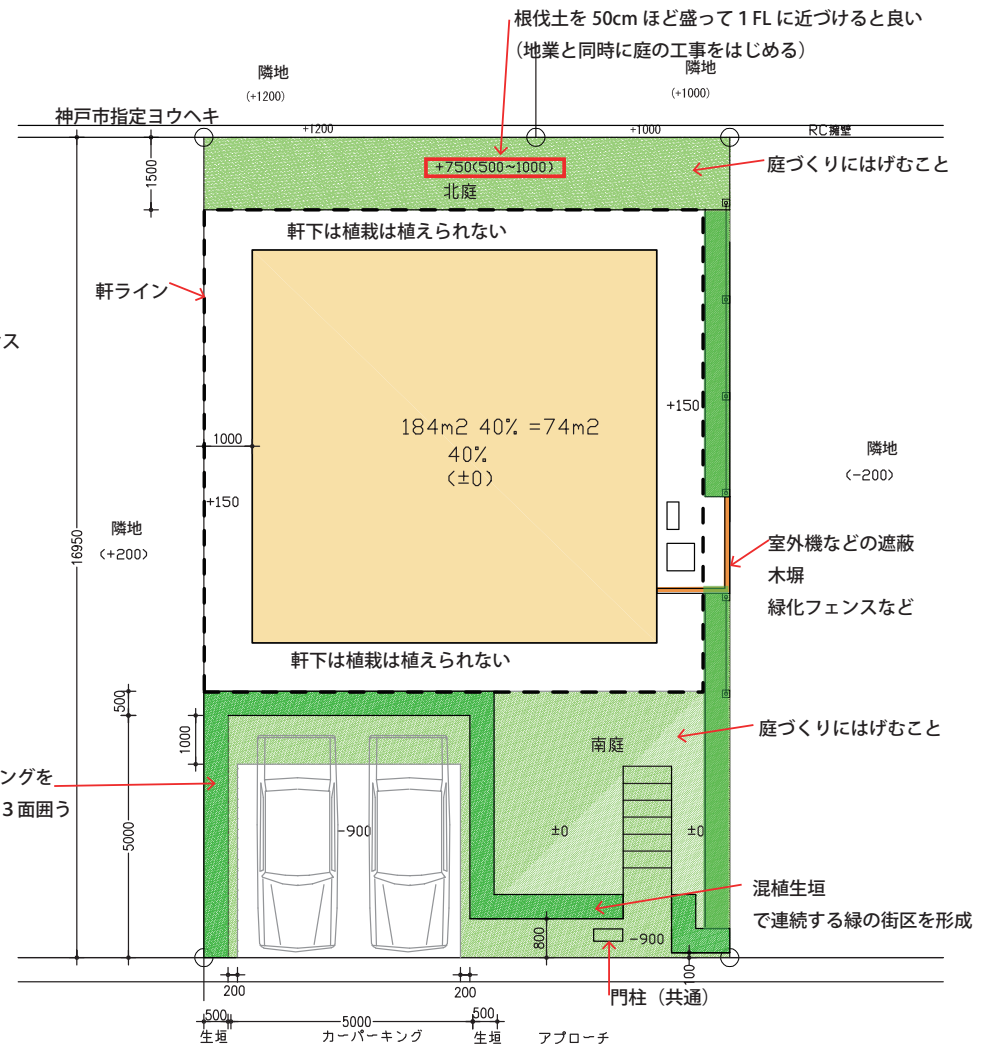
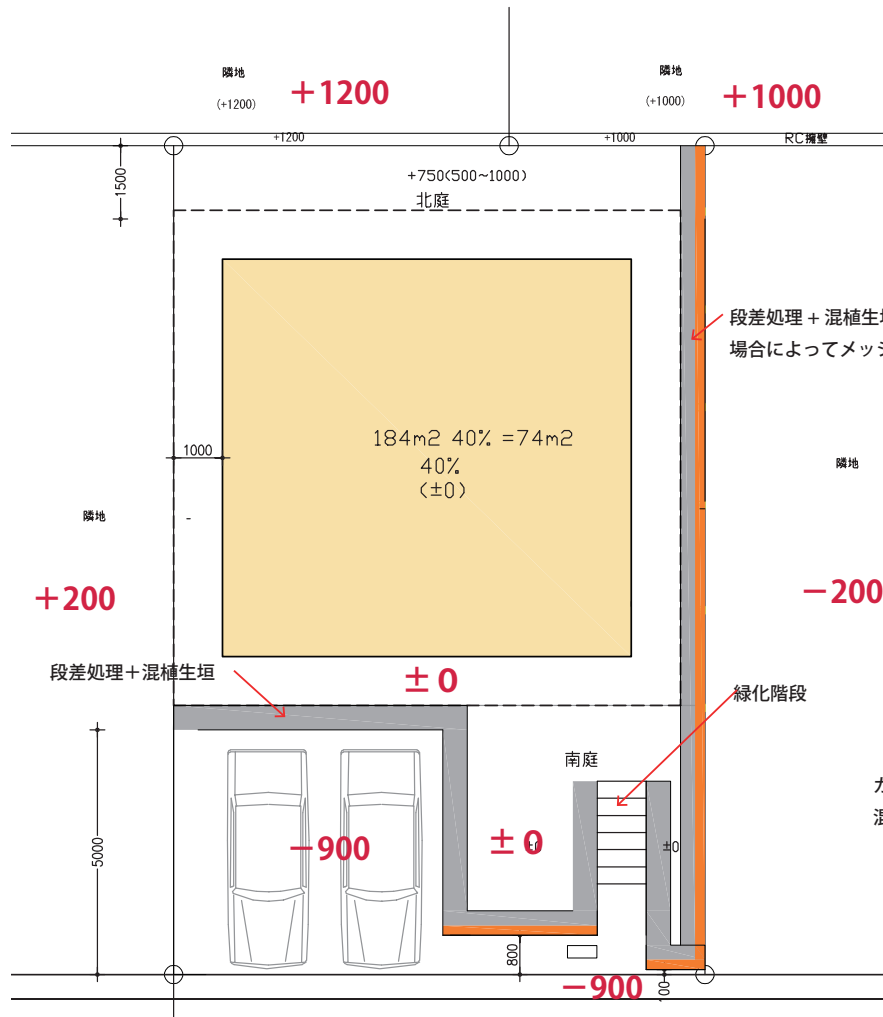
「共通資材」

- 門柱(門灯付き)、フェンスなどは住宅博カタログの仕様のものとする

「水栓」

- メンテナンスを配慮して、外部水栓は道路側の庭と奥の庭に2箇所程度設ける。
(水盤を設置する場合はその近くにもう一箇所給水バルブを設ける)





道路

「アースワーク・段差処理」

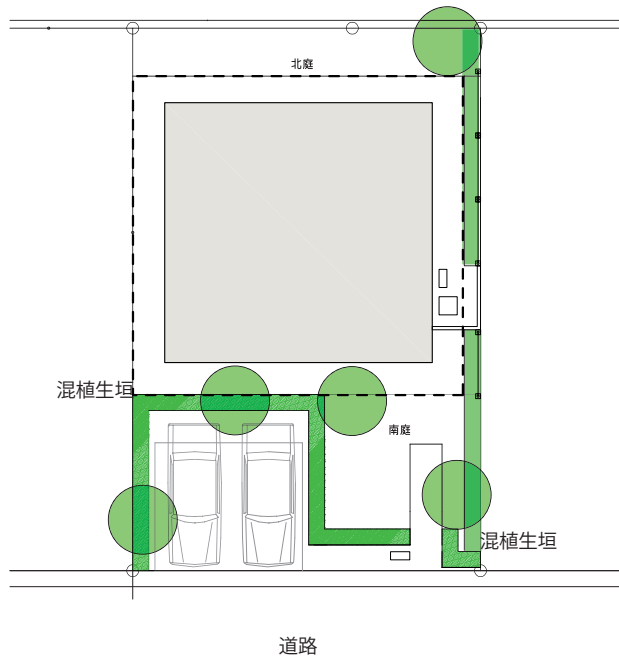
- ・ 段差の手当は地盤レベルの高い側が行う (コンクリートブロックは使用しないこと)
- ・ 土留 + 生垣、あるいは土留 + フェンスとする (低い隣地は庭の輪郭を得ることになるので、植栽・庭づくりにつとめる)

「混植生垣」

- ・ 駐車場は混植生垣で限りなく3面を囲まれるように努める
- ・ 道路沿いは混植生垣が連続するように植えること

「軒下」

- ・ 雨のあたらない軒下は植栽をしない



【里山住宅博 外構コード 緑の雲と混植生垣】

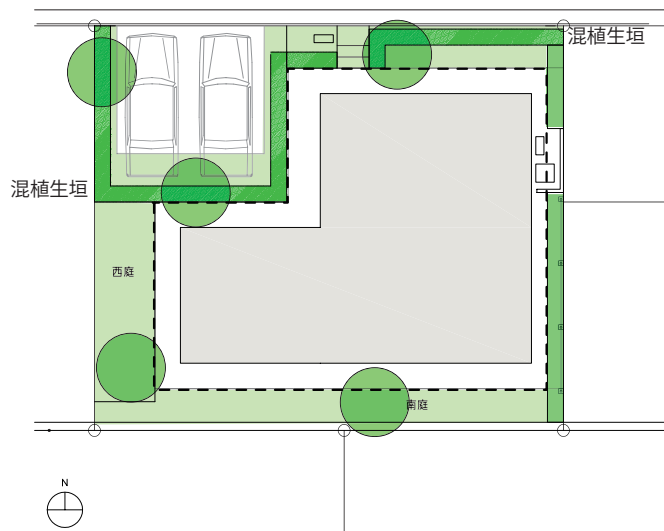
各区画は緑の街区の礎を形成するため、緑の雲、混植生垣が連続するように植える事

最低 5 本 緑の雲を植える事
(在来種の落葉高木)

- ① 玄関アプローチに 1 本
- ② 駐車場スペースに 1 本
- ③ お隣りとの間に 2 本
- ④ 窓の前に 1 本

混植生垣

- ・ 駐車スペース (3 面を囲む)
- ・ 道路沿い
- ・ 隣地境界



入居後には各区画の内側、北庭、南庭などの庭づくりを楽しみながら励むこと